

受験番号

平成29年度

早稲田摂陵中学校入学試験問題

(1月14日午前実施 本校会場)

国語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
2. この問題冊子は14ページまであります。
3. 解答はすべて所定の解答用紙に記入してください。
4. 解答用紙は2枚あり、問題冊子の中にはさんであります。
5. 特に指示のない場合、句読点・記号とも一字と数えます。
6. 質問があるときは、静かに手をあげてください。
7. 問題冊子にも受験番号を記入し、試験が終わったら提出してください。

次の①～⑥の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。また、⑦～⑩の——線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① ゾウの群れが草原をイドウする。
- ② フシギな出来事があつた。
- ③ いろいろとクフウする。
- ④ 選択せんたくをアヤマる。
- ⑤ スープがサめる前に飲む。
- ⑥ キソク正しい生活を送る。
- ⑦ 大海原をヨットが走る。
- ⑧ 町外れの公園に行く。
- ⑨ 線路に沿って進む。
- ⑩ 見事な細工をほどこす。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

青くひろがる空。

旗をたなびかせる浜風。

その光景を見たのは、まだ小学生のときだった。

甲子園出場をはたした市内の高校を応援するために、たくさんの人が公民館にあつまってテレビに見入っていた。海を越えて送られてくる、熱戦の中継映像。

土に汚れたユニフォームの選手たちが、力いっぱいバットを振り、全速力で走り、白球を追っている。画面が切り替わってスタンドが映し出されると、そこには、吹奏楽部員たちが一心に演奏するすがたがあった。

ふりそそぐ陽射しに顔をほてらせ、汗をにじませながらも、まっすぐに前を向いて奏でつづけている。真夏の太陽をうけて、トランペットが金色に光をはじいて、高く、高く、青空へ向かって音が飛んでいくのが見えるようだった。

その光景がまぶしくて、目が離せなくて、胸が高鳴ってきて……。そして、心に決めた。

いつか、私もあの場所へ行きたい。

いつか、あのアルプススタンドで、青空へ向かって音を響かせたい。

『北海道札幌白翔高等学校 入学式』

四月初め、よく晴れた空にふわりと白い雲が流れている日。

極太の筆文字で書かれた看板が立っている校門をめざして、小野つばさはうつむきがちに歩いていた。つばさの目には、さつきからずつと、薄紅色をした桜の花びらが散ったアスファルトと真新しいローファーばかりが映っている。

後ろからやってきた生徒が、追い抜きざま、つばさの肩にぶつかった。

「う、ごめんなさい……」

ぶつかってきたのは向こうなのに、つばさのほうからあやまってしまう。でも、ぶつかった生徒はつばさに目をとめることもなく、足早に先へ行ってしまった。

つばさは④息をついて、やっぱり高校生って⑤してるなあ、と感心してから、私も今日から高校生なんだっけ、と思いなおした。

この高校へは、中学のときのクラスメイトもきていないし、家から通うのにとくに便利なわけでもない。担任教師や両親からは、「もつとらしくに通学できるところへ行けばいいじゃないか」と言われたけれど――。

⑥それでも、この白翔高校を受験したのには理由があった。

正面玄関から校舎へ入って、あたりを見まわしながら、つばさは⑦廊下を歩きはじめる。

しばらく行ったところで、少し先に、なにかキラキラしたものが目にとまった。

吸いつけられるように、足を速めてそちらへ歩み寄ってみると、それはガラス張りの展示ケースだった。

どっしりとした盾やトロフィーが、数えきれないほど飾ってある。

そのなかに、同じような形をしたトロフィーがいくつもまとまって置かれていた。紅白のリボンが結ばれているトロフィーの台座を見ると、それらはすべて吹奏楽部が獲ったもので、⑨の文字が彫りこまれている。

「かっこいい……」

こんなにたくさん、やっぱり、白翔の吹奏楽部ってすごい……。金色に輝くトロフィーに見入りながら、つばさがつぶやきをもらしたとき、

「かっこいい」

すぐそばから、まったく同じつぶやきが聞こえた。

横を向くと、丸刈りにした男子生徒がすぐそばに立っていた。男子生徒が着ている制服のブレザーはしみひとつなく、生地にも張りがある。どうやらつばさと同じく新入生らしい。

「やっぱり白翔ってすごいなあ」

その男子生徒は展示ケースの中を指さしながら、つばさへ話しかけてきた。

「あ、はい」

⑩ 初対面なもののおじしなない子だなあと思いながら、つばさもうなずく。そして、つばさと男子生徒は同時に口を開いた。

「野球」

「ブラバン」

おたがいに、あれっ、という表情になる。

「そっか、白翔しらとは吹奏楽すいそうがくも強いもんなあ」

男子生徒は、うん、うん、とうなずいてつぶけた。

「俺おれさ、小学校のとき、白翔こらしえんが甲子園に出たの観みててさ。最終回、五点ひっくり返してさ——」

「そ、それ、私も観てました！」

思いがけないことを言われて、つばさはさえぎるようになっていきおいこんだ。

「え？　ほんど？」

「その試合、いっぱい負けてて、でも、選手もスタンドもあきらめてなくて、空に音が飛んで、トランペットが光ってて、すごくいいな
つて！　それで、白翔の吹奏楽部にあこがれて……」

⑪ 「俺もだよ！　あの試合観て、白翔に入りたいつて！」

つばさと男子生徒はまばたきも忘れたようになって、顔を見あわせる。

創立七十二年を誇る白翔高校。数ある部活動のなかでも、吹奏楽部と野球部はとくに有名で、吹奏楽部は全国大会で金賞を計十六回、野球部は春夏合わせて十二回の甲子園出場という輝かがやかしい実績がある。

吹奏楽部と野球部というちがいはあっても、この高校を志望したきっかけは同じ。すごい偶然ぐうぜん。

「……いいね。今、なんか見えた」

男子生徒はそんなことをつぶやいて、ぱっと顔を輝かせた。見えたって、なにが？　と、問う間もつばさにあたえないで、

「小野さん！」

と、つばさのほうへ身をのり出すようにしてきた。

「は、はい！ あ、なんで名前……」

ふしぎそうにするつばさの胸のあたりを、男子生徒は指でさししめす。そこには、今日使いはじめたばかりの名札がついていた。

「俺、絶対甲子園行くから、小野さん、スタンドで応援おうえんしてよ」

「え？」

⑫
「約束ね！」

「は、はい」

男子生徒の意気ごみにおされて、つばさはあいまいにうなずく。男子生徒は満足げに笑えみをうかべると、じゃあね、と立ち去っていった。

歩幅ほはばが大きくて姿勢のいい後ろすがたを、つばさは見送る。背が高く、肩幅かたはばが広くて、背中も手も、なにかもが大きな男の子。

ほんとに積極的っていうか元気な子だなあとという思いとともに、男子生徒の胸むなもとにあった名札の『山田やまだ』の文字がつばさの目のなかに残っていた。

(下川香苗『青空エール』)

※ ローファー……靴くつの一種。

問一 — 線部①「あの場所」とは、どこのことですか。文章中から八字でぬき出して答えなさい。

問二 — 線部②「うつむきがちに歩いてた」とありますが、このときのつばさの気持ちとしてふ・さ・わ・し・く・な・い・も・のを次の(ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- (ア) 期待 (イ) 緊張きんちやう
(ウ) 不安 (エ) いらだち

問三 — 線部③「真新しいローファア」とは、何を表していますか。 — 線部④よりあとの文章中から三字でぬき出して答えなさい。

問四 — ④・⑤・⑦に当てはまる最も適当な言葉を次の(ア)～(ウ)の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使ってはいけません。

- (ア) 堂々と (イ) ゆっくりと (ウ) ふーっと

問五 — 線部⑥「それでも、この白翔しらと高校を受験したのには理由があった」とありますが、つばさが「白翔高校を受験した」理由を、文章中の言葉を使って答えなさい。

問六 — 線部⑧「キラキラしたもの」とは、何ですか。文章中から七字でぬき出して答えなさい。

問七 ⑨に当てはまる言葉を文章中からさがし、ぬき出して答えなさい。

問八 — 線部⑩「ものおじしない」の意味として最も適当なものを次の(ア)～(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- (ア) あわてない (イ) いそがない (ウ) いやがらない (エ) こわがらない

問九 — 線部⑪「つばさと男子生徒はまばたきも忘れたようになって、顔を見あわせる」とありますが、なぜ「まばたきも忘れたようになって、顔を見あわせ」たのですか。文章中の言葉を使って答えなさい。

問十 — 線部⑫「約束ね!」とありますが、約束の内容を文章中の言葉を使って答えなさい。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

鳥は、恐竜が生きていた時代から地球の空を舞っていました。

皮膚のつばさをもった空飛ぶ爬虫類「翼竜」が巨大化する一方で種の数を減らし、自然に衰退するなか、空いた隙間に①進出して、気がつけば空を舞うのは圧倒的に鳥が多い、という状況になっていました。いまから7000万年前の白亜紀の空を、鳥は支配しつつありました。

中生代に、鳥は恐竜と共存していた？ いえ、それは少しちがいます。進化して、空を飛べるからだを手に入れた一部の恐竜が、「鳥」になっていたのです。つまり、空を飛ぶ鳥は、姿かたちこそちがえども、恐竜の一グループであることにかわりはありませんでした。

恐竜は6550万年前に絶滅しました。でも、それは表向きのこと。恐竜は「鳥」に姿を変えて現代まで生き残り、大繁栄していると考えていいのです。

周りの人に鳥の特徴を③ざっくり挙げてもらおうと、「鳥にはつばさがあり、羽毛があり、口の代わりのクチバシがある。温血。卵を抱いて温め、雛を孵す」。そんな答えが返ってきます。でも実は、クチバシ以外の特徴は、祖先から丸ごと受け継いだものでした。

この十数年で、多くの恐竜が羽毛をもっていたことがわかりました。しかもそれは、灰色だったり、茶色だったりする哺乳類のような地味な色ではなく、白や黒はもちろん、赤や黄色やオレンジや、もしかしたら青や緑や紫の羽毛ももっていたかもしれないのです。

かつては、ゾウやサイのようにむきだしで地味な色をした皮膚の生物として描かれていた恐竜が、ふんわりとした羽毛をまとった姿で描かれている最近の恐竜図鑑を手に取り、驚いた方も多いことでしょう。いまでこそ「羽毛」といえば鳥ですが、カラフルな羽毛を先に身にまとったのは、祖先の恐竜たちでした。

鳥の祖先は、ティラノサウルスやオビラプトルなどを生み出した肉食恐竜のグループです。当時、最大の暴君として知られたティラノサウルスは、鳥たちの直接の祖先ではありませんが、何代か前に枝分かれした親戚すじにあたります。そして、近縁の肉食恐竜の多くは、確実に羽毛をもっていました。

ちなみに、⑧まったく鳥とは縁のない別系統の恐竜の皮膚化石にも羽毛の痕跡が見つかっています。恐竜と同じ祖先から生まれた翼竜のつ

ばさの皮膜にも、原始的な毛状の組織があつたようです。つまり、皮膚に羽毛をつくる遺伝子は、誕生直後の恐竜か、それ以前の祖先がつくりだしたもので、それが鳥に受け継がれたということなのです。

さらに、「つばさ」をつくりだしたのも、鳥の祖先の恐竜たちだつたことがわかっています。

恐竜がもつていた初期のつばさには、十分な飛行能力はなかったものの、つばさのおかげで少ないエネルギーで樹上に駆け上がることできたうえ、樹上から滑空して少し離れた場所にいる獲物におそいかかるともできました。また、つばさによる「羽ばたき」が着地の衝撃を弱めてくれるため、ケガすることなく樹上や崖から飛び降りることができたと考えられています。

羽毛やつばさはなぜ生まれたのか。それには、いろいろな説があります。ここで挙げた滑空なども大きな可能性のひとつですが、より多くの卵を効率よく抱くために発達した可能性も否定できません。ただ自身の皮膚に密着させて卵を温めるより、羽毛で包み込んだほうが、多くの卵をむらなく温めることができます。

また、カラフルな羽毛を使って異性を引きつけるためのディスプレイをする鳥がいるように、恐竜の一部もカラフルな羽毛で異性を引きつけていた可能性があります。

そんな恐竜の一部が、空を目指しました。空を自在に飛ぶためには、身を軽くする必要があります。鳥の祖先は、からだのいらぬ部分をそぎ落とし、どうしても必要な部分だけを残しました。歯は捨て、かわりにクチバシを。重い尾も捨てました。かわりに、尾羽と、つばさの微妙なコントロールでからだのバランスを取れるようにしました。

また、空を自在に飛んで生きるためには、地上暮らしよりも発達した脳がいります。視覚情報も、とても大事になるため、目も良くしなくてはなりません。

結果として鳥は、大きな脳と大きな目をもつようになりました。それが、いまの鳥の姿です。そして、その大きな脳が、インコを賢く、ユーモラスにしたと考えられるのです。

6550万年前、メキシコのユカタン半島に巨大な隕石が落ち、さらに地球の裏側のインドでは、土地の6割にも相当する面積での火山噴火が数万年間も続きました。こうした一連の事件によって、地球環境がそれまでとは一変したことで、多くの生物が絶滅しましたが、鳥類は生き残りました。

しかも、たった1種類が生き残って、大絶滅期ののちにそこから再度、分化していったわけではありません。当時、すでにダチョウなどの走鳥類や、カモ類の祖先などが分化していて、小鳥類を含めた複数の鳥類がいました。

哺乳類の祖先も、白亜紀後期に複数のグループに分化していて、分化した個々のグループが絶滅を乗り越えていたことがわかっていません。

恐竜も翼竜も基本的に絶滅したにもかかわらず、鳥類と哺乳類がともに苦境を生き延びた事実から、彼らが絶滅を乗り越えることのできた理由が、少しずつ見えてきました。

現在も同様の特徴を残していますが、この時期の鳥類と哺乳類には、恐竜に比べて「成長が速い」という特徴がありました。わずか数週間で親と同じサイズにまで成長して、数か月から1年後には繁殖できるようになるものも多かったです。

そうした特徴のおかげで、食料が少ない場所にいたグループが全滅してしまったとしても、食料をそれなりに確保できたグループは、数を維持できたり、増やすこともできました。鳥にかぎっていえば、最大の特徴である「飛べる」という事実は、エサを探したり、巣をつくる場所を探すのに、とても有利でした。

成長が速いということは、次の世代の誕生が早いということ。つまりは、進化(分化)のスピードが速いことを意味します。実際、恐竜が何百万年、何千万年かけて行つた進化を、鳥は数万年、数十万年という短時間でなしとげてしまいました。そして、新しい世界、新しい環境に、ほかの動物よりも早くなじみ、空という環境の支配的な生物になると同時に、空以外のさまざまな領域への進出もはたすことができました。

また、鳥が適度な大きさだったことも幸いしました。恐竜が鳥に進化する際、大幅なダウンサイジング(小型化)があったことがわかっています。大型く超大型の恐竜が闊歩していた白亜紀、鳥はコンパクトな小鳥くハトサイズのものが多いで、それが絶滅を乗り越えるのに優位に働いたと考えられています。エサが得にくい時代、少ないエサで生きていけることが、時代を乗り切る絶対の条件だったからです。

祖先の恐竜から「温血」という特徴を受け継いだ鳥の体温は、39く43度。温血動物は、高い体温を維持するために、同じサイズの変温動物の数倍の食料を必要とします。温血という資質は、すばやい活動には適していますが、絶滅期の食料難の時代、大きなからだでは、食料が足りずに餓死してしまう可能性も高くなります。

恐竜という時代の支配者のもとで生きたことで、当時はまだ巨大化の方向に進まなかった（進めなかった）ことが、結果として鳥たちに幸運を招きました。私たちが、絶滅を回避できた鳥の祖先から進化した、インコやオウムという知的で個性的な生き物と出会えたのも、この時代を生き延びられたおかげなのだと思うと、感慨深いものがあります。

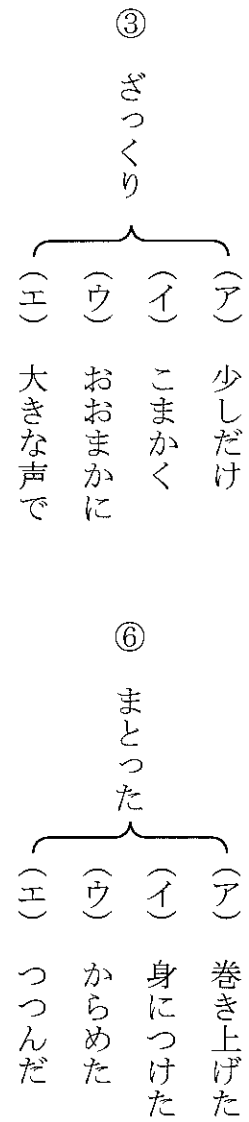
（細川博昭『インコのひみつ』）

問一 —— 線部①「どんどん進出して」とありますが、何が進出したのですか。最も適当なものを次の（ア）～（エ）の中から選び、記号で答えなさい。

- （ア） 爬虫類 （イ） 翼竜 （ウ） 恐竜 （エ） 鳥

問二 —— 線部②「それ」の指す内容を文章中の言葉を使って答えなさい。

問三 — 線部③ 「ざっくり」、⑥ 「まとった」の意味として最も適当なものを次の(ア)～(エ)の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。



問四 — 線部④ 「祖先」とは、何ですか。文章中からぬき出して答えなさい。

問五 — 線部⑤ 「地味」の対義語を漢字で答えなさい。

問六 — 線部⑦ 「最大の暴君として知られたティラノサウルス」に使われている表現技法を次の(ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- (ア) 倒置法 とうちほう
- (イ) 反復法 はんぷくほう
- (ウ) 擬人法 ぎじんほう
- (エ) 対句法 たいくほう

問七 — 線部⑧ 「まったく鳥とは縁のない別系統の恐竜の皮膚化石にも羽毛の痕跡が見つかっています」の「まったく」は、——線部⑧のどの部分にかかっていますか。次の(ア)～(オ)の中から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 鳥とは
- (イ) ない
- (ウ) 皮膚化石に
- (エ) 痕跡が
- (オ) 見つかっています

問八 — 線部⑨ 「多くの生物が絶滅しましたが、鳥類は生き残りました」について、次のⅠ、Ⅱの問いに答えなさい。

Ⅰ 「恐竜」が絶滅した理由として適当でないものを次の(ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- (ア) 鳥類や哺乳類の数が増えたから。
- (イ) 地球に巨大な隕石が落ちたから。
- (ウ) 火山噴火が数万年も続いたから。
- (エ) 巨大化して食料が不足したから。

Ⅱ 「鳥類」が生き残った理由として適当でないものを次の(ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- (ア) 鳥類は、わずか数週間で親と同じ大きさにまで成長し、数ヶ月から一年ぐらいで繁殖できるものも多く、また、進化も速く、空以外の環境に早くなじむことができたから。
- (イ) 鳥類は、空を飛ぶことのできるつばさを手に入れ、新しい環境へ出て行くことができ、食料が確保できる場所を探したり、巢を作る場所を探すのに有利であったから。
- (ウ) 鳥類は、恐竜という時代の支配者がいたため、巨大化の方向に進めなかったため、小さなものが多く、これがエサの少ない時代を生き抜いていくのに有利であったから。
- (エ) 鳥類は、ほかの哺乳類や恐竜とは違い温血動物であり、少しの食料で高い体温を維持することができ、食料が足りない時代を生き抜いていくのに適していたから。

問九 本文の内容に合うものとして最も適当なものを次の(ア)～(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 鳥はすべて翼よくりゆう竜から枝分かれした、いわば小さな恐竜きょうりゆうである。
- (イ) はじめてカラフルな羽毛うもを持ったのは恐竜ではなく、鳥である。
- (ウ) はじめてつばさを持ったのは恐竜で、十分な飛行能力はなかった。
- (エ) 鳥は大きな脳と良い視力を持っていたので、空を飛べるようになった。